

ことばの研究へ向けて

著者	馬瀬 良雄
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 1: 18(1980)
発行年月日	1980-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022336

五十四年度講演と研究発表要旨

△設立総会講演要旨▽ (五四、八、五)

ことばの研究へ向けて

信州大学教授 馬 瀬 良 雄

発会にあたり、ことばの研究の諸分野と、この会の目指す研究のあり方について述べる。ことばの研究には、ことばそれ自体を純粹な研究対象として抽出し、一方その記述を進め、他方ではその変遷を扱う分野がある。前者をことばの共時的研究、後者を通時的研究と名づけることができる。

われわれはことばによって社会をつくり、それを機能させ、生活を営む。ことばを社会・生活の観点から研究する分野がある、言語生活の研究がそれで、社会言語学的研究と言うことができる。比較的新しい研究分野である。

ことばの教育についての研究も本会の重要な研究分野の一つだが、幼児・小学生・中学生・高校生の一貫したことばの教育が行われ、研究がなされるべきである。従来、相互の連繫に欠けるうらみがあっ

た。また長野県方言の研究も大いに進めていくべきである。個人研究・共同研究ともに活発に行い、閉ざされた会ではなく、開かれた会としたい。そして無限の創造性と発展性を持つ夢のある研究会としたい。